

2011年11月22日(火)発行 VOL32

発行者:「九条の会」事務局 ホームページアドレス:<http://www.mc.ccnw.ne.jp/kyujou/>



## みなと医療生協「九条の会」 九条ねっと

放射能汚染で命が粗末にされる時代。  
それを許さない国民的運動を！  
肥田舜太郎医師を招いて「7周年記念講演会」

みなと医療生協九条の会は10月25日(火)夜、94歳の肥田舜太郎医師を招いて7周年記念講演会を開催。この日のテーマは「放射能汚染時代をどう生きるか～被爆医師が熱く語る」。福島第一原発事故でひろがる放射能汚染の中で私たちはどう生きるべきかを熱く、そして鋭い視点で語りました。

### ●語り部が伝える被爆者の姿

レインボーセンター2階ホールの会場は、180人の参加者で満員。九条の会の歩みやメッセージ紹介、医局合唱団の歌声を披露した後、肥田医師が約1時間半にわたって講演。お話は、広島陸軍病院に軍医として赴任していた26歳の時の被爆体験からはじまりました。当日、たまたま往診に出かけた農家で目撃した閃光とキノコ雲。皮膚が焼けただけドロドロになった人たちの列、裸で次々に川に飛び込む男女、爆風で破壊された村の小学校の校庭に横たえられた1000人を超える人たちを前にはじまった手探りの治療…思わず息を飲む情景が語られると、会場は静まりかえりました。

被爆の惨状のなかで、数日後には被曝のやけどがない人にも紫斑ができ、大量の血をはいて死にはじめ、“爆発した後も何かが残っている”ことに気がきます。しかし、米国の占領とともに被害の実態はいっさい秘密にされ、被爆者はモルモットとして扱われ、日本側の調査・研究は禁止されます。原因不明の体調不良に悩む被爆者はさまざまな差別に苦しめられ、66年後の現在もその苦しみは続き、多くの人が亡くなっていると指摘。

### ●原発に殺されないために健康で長生き& 原発・核兵器をなくす運動を

福島第一原発の事故で、同じようなことが繰り返されており、今後、半年から1年の間に内部被曝の慢性症状が多くの人に出てくるのではと指摘。医師の多くは被曝の症状を知らないなかで、私たちはどうすればいいのか。ご飯をしっかりと食べる、きちんと排泄をする、十分な睡眠をとる、といった昔から健康にいいといわれている生活をおくり、長生きすることが重要だと話されました。そして、「今の日本で放射線の影響を受けていない人はいない。そのうち脳梗塞、心筋梗塞といった症状がもっとでできます。原発に殺されないために、自分の体は自分で守って長生きすることが憲法を守ることに。原発や核兵器を持とうとする人たちには“私が許さない”という意思表示をみんなできていきましょう」と訴えました。自ら被爆し、被爆者の診療を通して生涯放射能被害と向きあった医師の闘いのバトンが、私たちに確かに手渡されました。

↓94歳とは思えない！熱弁する肥田先生



## 参加者からの感想

- 被爆は皆、全国どこでも浴びていると言うことにびっくりする。自分の命は自分で大切に、自分が守る。他人事ではでなないと思いました。
- テレビの報道、講演会などで原発の怖さ、被ばくについて学習していましたが怖さがやっとわかった講演でした。人ごとでなく自分のこととしてこれから勉強していきたいと思います。
- 長いお話でしたが知らないことをいっぱい伺いました。そして、たくさん学ばせていただきました。
- 被爆し、また被爆者の医療に従事された先生の生の話が聞けたことの貴重さは、聞いてみて初めてわかる実感しました。被ばく者として自分の健康と憲法を守らねばいけないですね。
- 原爆は本当に怖いのです。聞いていて怖かったです。貴重な体験談を聞いて良かったです。戦争は絶対ダメですね。
- 自分の体、自分の国は自分で守るという決意、考え方に感銘致しました。

他にもたくさんの感想を頂きました。紙面の都合上、割愛させていただきます。また、みなと医療生協「九条の会」へのカンパとして6万7千円も集まりました。本当にありがとうございました。(事務局)

## ～核も原発もいらない社会をめざして～ 平和の夕べ



今年もいよいよあとわずかになりました。みなと医療生協「九条の会」今年最後のイベントは、やはり「平和の夕べ」に決定しました。好きなことができ、趣味や特技で毎日いきいき生活できるのも平和だからだね。今回は特に 3・11東日本大震災という未曾有の震災と福島原発の放射線汚染問題が起きた年だからこそ、今まで以上に「平和」や「命」にこだわりたいですね。

楽しい企画を計画中です。皆さん、こぞってお越し下さい。

- とき：12月20日（火）
- 時間：午後6時15分スタート
- ところ：協立総合病院内科外来前

### 《プログラム》

歌やあせ 2011（職員・組合員の合同合唱団）  
南保放射線科技師長の福島原発での仕事報告  
震災・原発事故「メッセージ」  
医局合唱団  
職員バンド